

平成 29 年第 2 回北川村議会定例会行政報告

(平成 29 年 6 月 15 日)

おはようございます。平成 29 年第 2 回北川村議会定例会を召集しましたところ、議員各位には公私何かとご多用のなか、ご出席をいただき、本議会定例会が開かれますことを厚くお礼申し上げます。

提案に先立ちまして、行政報告をさせていただきます。

<地方創生について>

平成27年12月に策定いたしました「北川村まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、今年度、実行2年目がスタートしました。

本戦略の進捗状況は、北川村に住んで生活できる収入を得られる産業の構築及び北川村に住みたい生活環境の整備、それぞれの項目ごとに、これまでの取組みが芽出ししつつある分野もある一方、より長期的な視点から課題を明確化し、戦略の肉付けや見直しをすべき分野が生じておりますので、今後、役場内での議論を経て、有識者等で構成される地方創生推進委員会でのご意見もいただき、戦略のブラッシュアップを行なってまいります。

また、本年4月10日に、国立社会保障・人口問題研究所が新たな日本の将来推計人口を発表しました。これによりますと、日本の総人口が今から徐々に1/3減った8千万人台になるのは、前回の推計よりも5年先の2065年に見直されています。

しかし、北川村に目を転じますと、今年度小学校に入学した子供が7人、来年の見込みは6人という状況です。この6人という数字は、国が推計した13年後2030年の村の0歳から14歳までの平均人数です。因みに、昨年度の出生者数は3人、今年も3人にな

りそうです。昨年生まれた子供、今年生まれる子供が13年後には中学生になります。

つまり、国が想定しているよりも、はるかに早いスピードで北川村は人口減少が進んでしまう、という現実を認識し、行動しなければならないという事です。

こうした危機感をまずは役場の職員が持ち、そして村全体で共有し、3月議会定例会の施政方針でも述べさせていただきましたように、目的意識と成果を徹底的に追及して、「千人の家族が子どもを育むゆず王国北川村」の実現に向け、スピード感を持って課題解決に取り組んでまいります。

<災害復旧事業について>

今年4月6日から7日にかけて、最大24時間雨量111mmの豪雨に見舞われました。この豪雨により、林道上杉線の法面が崩壊し、延長34mに渡って被災を受けました。この災害につきましては、先週の6月7日に林道の災害査定を受け、国費負担の承認を得ましたので、速やかに復旧工事を発注してまいります。

現在、過年度からの災害復旧事業につきましては、平鍋地区の農業災害が1件残っておりますが、6月中に完成する見込みです。

<防災・地震対策について>

6月4日に実施されました高知県総合防災訓練では、メイン会場となる室戸市の室津港ブロックヤードにおいて、北川村消防団が自衛隊や他の消防団と連携し、水防工法（積み土のう工法）訓練に参加しました。

また、村内ではサテライト会場として、島・久江ノ上地区で孤立対策訓練が行われ、21名の地域の皆様にご参加をいただきました。

た。訓練では、防災食、保存食のへり搬送要請や傷病者の応急手当の実施、トリアージからの重病者のへり搬送要請などの医療救護訓練を実施し、南海トラフ地震等の発生により、孤立した場合の対策について、実際の災害時を想定した大変意義のある訓練となりました。

次に、個人住宅の耐震化につきましては、今年度職員と診断士による年間200件の戸別訪問を目標に取り組みを強化しました。3月から4月にかけては野友地区を、5月から加茂・久府付地区を戸別訪問し、耐震工事の重要性と補助制度について説明させていただいております。

この結果、6月1日現在で、耐震診断9件、耐震設計3件及び耐震改修3件の申込みを頂いております。今後は長山地区、宗ノ上地区を訪問し、耐震診断と耐震工事の推進に引き続き取り組んでまいります。

<住民の移動手段の確保について>

代替バスの運行につきましては、ご利用いただく皆様の利便性が少しでも向上するように、新たな運行形態の協議を進めております。

これまでの協議では、現在のデマンド運行区間を自宅まで送迎可能な区間とすることや、現在、運行路線となっていない地域については、新たに会員制の区域運送制度を導入するなどの案を検討しているところです。

今後は、10月の運行開始に向けまして、8月に北川村地域公共交通会議で運行形態について合意をいただいたうえで、9月補正予算に必要な経費を計上し、その後、陸運支局への登録手続きを行ってまいります。

<日本一の元気な長寿村づくりについて>

保健福祉関係では、村の基本政策の一つとして「日本一の元気な長寿村づくり」を掲げ、目標数値として「要介護率」が全国で一番低い自治体となることを目指し、健康寿命を延ばしていく取り組みを進めているところです。

北川村では、要介護状態になる要因として、心臓病や脳卒中などのいわゆる生活習慣病が多くを占めていることから、まずはこれらを予防することが健康寿命を延ばすために重要なポイントとなります。このため、生活習慣病を予防するための特定健診を受診していただく勧奨活動を強化いたしました。

平成28年度の受診率は46.4%となっており、前年度の43.3%を上回る結果となりました。

今年度は5月に小島で集団健診を実施し、7月には保健センターでも健診を予定しております。今年2月に役場に配置しました保健福祉推進員が中心となって受診勧奨に務めておりますが、今後、健康づくり婦人会の皆様とも連携しながら、勧奨活動の成果が上がるよう努めてまいります。

また、保健福祉推進員を、村内各地で実施している「あったかふれあいセンター」での介護予防事業のスタッフとして参加させております。今後は、看護師としての専門的見地から見えてくる課題や要介護状態となる要因などを分析し、戸別訪問を通じた適切な健康指導や効果的な介護予防事業の構築に結びつけてまいります。

<ふるさときたがわ寄附金について>

「ふるさと納税」につきましては、平成28年度の納税件数は3,531件、納税額が2,367万円となり、目標としておりました

1,800万円を大きく上回ることができました。

今年度は5月末までの2か月間で、385件、457万円の実績となっており、昨年6月にインターネットでの受付を可能にして以来ちょうど1年が経過し、順調に寄附の実績が伸びております。

4月に総務省から全国の自治体に対して、返礼品の金額を納税額の3割以下にするなど、ふるさと納税の趣旨に反するような返礼品については見直すよう求める通知がありました。この通知の趣旨を踏まえつつ、他の市町村の動向も注視しながら今後の対応を検討したいと考えておりますが、引き続き、農産物のアイテム数を増やすなど、魅力ある返礼品の企画を進め、今年度目標に掲げました年間納税額3,000万円を目指してまいります。

<第1次産業の振興について>

ゆずの振興につきましても、現在、村内の2地区で大規模な園地の基盤整備の準備に着手いたしました。そのうち、和田日曾裏地区では、地権者の皆様全員のご理解をいただき、8月頃に土地改良手続きがスタートできる見込みとなっております。

野友地区は、5月30日に地区説明会を開催し、地域の方々34名にご参加いただきました。このうち、約7割の方が基盤整備の推進を希望されております。まだ約2割の方が態度を決めかねておりますので、今後は地権者の皆様の意向に沿えるよう、きめ細かな対応をおこない、早期に基盤整備に着手できるよう取り組んでまいります。

こうした大規模な基盤整備にあたっては、村内におけるトンネル工事をはじめとする土木工事の残土を利用するだけでなく、出来る限り速やかに効率的な園地を整備する方策を県などとプロジェクトチームを設置し、検討してまいりました。

そうした中、2月に高知県の農業振興部が主催する本省及び中国四国農政局との意見交換会に招かれ、土地改良法の改正に伴う新たな基盤整備事業を検討中との情報を入手し、骨格が固まる前に動かなければならないと考えました。

その後、事業が一定規模のまとまった面積を確保する必要があるなど、北川村のような中山間地域にとっては活用しづらい条件が検討されていることが判明しました。このため「面積要件の緩和」や「エリア設定の柔軟な運用」などをプロジェクトチームで確認し、また議員の皆様のご協力を賜り、案件整理を行いつつ、4月4日に中国四国農政局長に、4月6日に山本農林水産大臣へ要望を行いました。

その結果、大変良い感触をいただきましたので、農政局の担当部長ほか幹部職員の方々に2回にわたり現地視察に入らせていただきました。視察の結果も踏まえ、5月31日には、山本農林水産大臣、三木財務政務官など、関係機関に再度要望してまいりました。その際、山本大臣からは、「国として柔軟な対応が出来るよう制度設計を進めていくことを合意した」との言葉をいただきました。

この案件につきましては、頻繁に議長に同行をいただき、議会の立場から共に要望していただいた結果、良い成果を得ることができました。議長を始め、議員の皆様には厚く御礼を申し上げます。

今後、この大臣の「合意」という意味を私自身が重く受け止め、県とも一層連携を密にし、法改正による基盤整備事業を活用したゆず園地の造成を加速してまいります。

そして、今議会終了後、村内放送で村民の皆様には、この度の経過をご説明し、地域が少しでも活気づき、且つ存続するために、基盤整備の候補地を地域毎に提案していただけるよう、投げかけをさせていただきます。

そのうえで、7月から村内各地域で開催を予定しています行政座談会において、住民の皆さんに事業内容をご説明し、積極的なご提案をいただきたいと考えています。

この座談会を通じまして、多くの地域住民の皆様と地域の未来と北川村の未来について率直な意見交換を行いたいと存じますので、議員各位のご協力をよろしくお願いいたします。

次に、園地の若返りにつきましては、昨年度、ゆずの苗木の購入費に対する全額補助を開始し、平成28年度は91名、2,337本（10aあたり80本で計算すると約3ha分）の配布を行いました。

平成29年度は、要望に対して苗が十分配布できるよう、JAに対して苗木生産者との連携を緊密に取ることなどを要請したところです。また、村内での自家育苗なども進め、十分な苗木が確保できるよう、関係機関と連携して取り組んでまいります。

<観光の振興について>

中芸5町村で申請しました「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」が4月28日に文化庁の日本遺産の認定を受けました。今後、中芸5町村が連携して地域の情報発信を強化することとしております。村といたしましても、これを契機にゆずのブランド化を一層進めるなど産業振興に活かすとともに、森林鉄道の遺構を中心とする地域資源の活用を図り、交流人口の拡大に努めてまいります。

モネの庭では、開園記念日の4月19日に園内のカフェ「モネの家」がリニューアルオープンいたしました。前日の18日には、議員の皆様をはじめ、大勢の関係する皆様にご参加をいただき、盛大にレセプションを開催することができました。

4月29日から5月7日までのゴールデンウィーク期間中の

モネの庭の利用状況ですが、対前年比108%となる9,949人のご来園をいただきました。期間中は天候に恵まれたことに加え、カフェのリニューアルオープンがテレビ等で数多く取り上げられたことが好調の要因と考えております。

次に、北川村温泉ですが、無事施工業者も決まり、5月11日に地元の方々にもご参加いただき、安全祈願祭が実施されました。6月8日には地元説明会を行い、来年4月のオープンに向け、本格的に工事をスタートしております。工事期間中は地元の方々に大変、御迷惑をお掛けいたしますが、ご協力をよろしくお願い致します。

<移住促進について>

移住促進住宅の整備につきましては、平成28年度より繰越を行い整備してまいりました久府付の2軒が6月中には完成する予定となっております。残りの野川の1軒も改修設計が完了しましたので、今後、速やかに改修工事に着手いたします。

平成29年度は3軒の整備を計画しております。このうち、久府付と野友の2軒につきましては、鑑定結果が出ましたので、今後所有者との交渉を行う予定です。また、残りの久府付の1軒は現在、不動産鑑定を行っているところです。

住宅の確保による受け皿の整備に合わせまして、今後、大都市圏で開催される予定の移住フェアで積極的にPRを行うとともに、できるだけ北川村にゆかりのある方にUターンしていただけるよう様々な機会を捉えて訴えてまいります。

ゆずの振興や村製品の開発などを担っていただき、将来、村に定住していただくことを目指し、地域おこし協力隊を募集してまいりましたところ、2名の方に応募いただきました。5月には書類

審査、6月に面接試験を行った結果、1名の採用を決定し、7月に着任いただく予定となっております。

<教育関係について>

《学校教育関係》

先に述べましたが、今年度小学校に入学した子供が7人、来年の見込みは6人という状況です。この6人という数字は、国が推計した13年後2030年の村の0歳から14歳までの平均人数です。因みに、昨年度の出生者数は3人、今年も3人になりそうです。昨年生まれた子供、今年生まれる子供が13年後は中学生になります。子供の数は国が考えている半分ないし半分以下になることが懸念されます。

北川村から子供の声が途絶えないようにしなければなりません。子供は地域の宝です。子供がいないということは、地域の未来を担う人がいないということです。無策で何も出来なければ、或いは、これまで通りのことしか出来なければ、近い将来、北川村から学校が消滅しかねない、という危機感を持って、子育て世代が希望を持って住むことができる北川村を目指して行動しなければなりません。

そのためには、特色ある学校づくり、教育環境整備を進めることが重要であり、去る4月25日に「北川村総合教育会議」を開催し、教育委員を含めた関係者による協議により、保育・小学校・中学校の一体化に向けた取り組みを進めていくことを確認しました。

その後、小学校・中学校の連携として、県内で先進的な取り組みを行っています高知市の土佐山学舎や香南市教育委員会の視察を行いました。

また、保育・小学校の連携につきましては、「北川村保小連携推進協議会」を昨年10月から月1回のペースで開催し、子ども達が保育から小学校にスムーズに移行できる仕組みづくりについて、検討を進めているところです。

今後は、高知大学の柳林准教授を座長に迎え、様々な角度から一体化を検討するため「北川村保・小・中一体化あり方検討会」を設置し、第1回目の会合を6月30日に開催する予定です。検討会は年4回程度開催する予定としており、県教育委員会の協力もいただき、保育・小学校・中学校が共通認識を持ちながら連携を強化していくための方策を協議するなど、保・小・中一体化に向けた本格的な検討を進めてまいります。

《家庭教育関係》

子育て支援や地域活動を担える人材づくり、つまり地域で子供達を育むことができる環境を整えなければなりません。そのためには、まず、家族で、親子で社会を構成する源である家庭を見直し、地域社会をしっかりと構築することが大切です。北川村に住みたいと思える生活環境整備において、精神面を支える重要な分野です。どっしりと腰を据え、じっくりと速やかに対応しなければなりません。

この分野は、3年後、5年後に如何に変化を感じることができるかが、ポイントだろうと考えています。また、進捗度合いを確認することが容易でないため、昨年度より考え方を工夫しながら進めている事業を中心に、今後、検討を重ね、少しでも変化を感じることができる目安となるような事業も行なうことが肝要と考えています。

この家庭教育については、6月8日にみどり保育所で「親子で

絵本を楽しむ」ための講演会を開催しました。

今後は、夏休みに向けた親子体験教室や9月に開催予定の高知大学との連携講座等についても準備を進めており、様々な機会を捉え、家庭や地域で体験や学びを深められる機会を創出するよう、努めてまいります。

《社会教育関係》

5月14日に開催されました第7回中岡慎太郎マラソン大会については、天候にも恵まれ、村内外から3種目あわせて583名のランナーに参加いただき、大きな事故もなく、盛会のうちに大会を終了することが出来ました。ランナーからは、「応援が多くて力になりました」「スタッフの対応がすばらしく、がんばろうと思った」「来年も参加したい」等の声を頂き、概ね成功であったと考えております。また、参加者アンケートでもほぼ全員の参加者から「良かった」と評価を得ています。

参加者全員に村内の施設無料の入場券を配布しておりますが、今回、モネの庭59名、中岡慎太郎館21名のご利用をいただきました。今後、直接的な経済効果に加え、大会の成果を様々な角度から検証し、中岡慎太郎を広く知ってもらい、という大会趣旨も踏まえ、より意義の大きな大会となるよう努めなければならない、と考えています。

本大会の運営にあたっていただきました実行委員会を始め、292名の村内外からのボランティアの方々、沿道で声援を送って下さったの方々、そして、ご協賛いただいた企業各社のご支援、ご協力に改めまして感謝とお礼を申し上げます。

《中岡慎太郎館について》

中岡慎太郎館につきましては、3月から始まりました「志国高知 幕末維新博」の地域会場となった事により、3月から5月の3カ月間の来館者数が昨年の2,138人から3,339人と56%の増となっております。

4月29日から開催しております維新博の関連企画展『中岡慎太郎「倒幕」への決意』では、京都大学附属図書館で新たに発見された中岡慎太郎の書状や高知県初公開となる「西郷隆盛」宛の書状等の展示による話題性もあり、多くの来館者が訪れました。

さらに観光協会主催のイベント「中岡家花家紋」との相乗効果により、ゴールデンウィーク期間中の来館者は対前年比167%となる1,262名となりました。

今後も、7月12日から開催されるガラス湿板写真を中心とした特別巡回展「幕末維新写真展」や毎年8月に開催しております「子ども歴史教室」等魅力ある施設として、情報発信・PRに努めてまいりたいと思います。

<中芸広域連合関係について>

(消防救急業務)

消防業務につきましては、平成28年度の火災発生は9件(対前年度比1件の増)となっております。なお、今年度4月末現在の管内における火災はありません。

救急業務は、4月末現在、出場件数70件(対前年同期比△4件)、搬送人員69人(対前年同期比△2人)となっております。

（介護保険業務）

平成28年度の介護給付費は、1,408,045千円（対前年度比53,541千円、3.95%増）で、事業計画に対して、20,036千円の増となっております。

（火葬場業務）

平成28年度の火葬実績は、226件（対前年度比42件の増）となっております。

内訳は管内209件（安田45件、田野35件、奈半利83件、北川30件、馬路16件）、管外17件となっております。

今年度につきましては、4月末現在で、管内18件（安田6件、田野1件、奈半利8件、北川2件、馬路1件）、管外2件、合計20件の火葬を行っております。

（保健福祉業務）

地域で孤立しがちな子育て中の親子や妊婦、障がい者支援の充実強化を目指し、田野町内に民家を借り入れ4月に「遊分舎（あそぶんじゃ）」を開設いたしました。

支援が必要な方々が気軽に集える場所として、開放日には数組の親子にご利用いただいております。

< 工事発注等の状況 >

本年度の工事関係(工事・委託業務)発注状況につきましては、
6月1日時点で、

区 分	総件数	発注件数	完了件数	発注率	完了率
・ 繰越明許費	12件	11件	1件	91.7%	9.1%
・ 現年予算	17件	0件	0件	0.0%	0.0%

今後も引き続き早期完成に向けて事業の進捗を図って参ります。

< 決算見込み >

続きまして、平成28年度の各会計の決算見込みですが、
一般会計：

歳入総額	2,527,186千円
歳出総額	2,419,170千円
翌年度への繰越財源	65,369千円
実質収支(純剰余金)	42,647千円

代替輸送特別会計：

歳入総額	22,495千円
歳出総額	22,486千円
実質収支(純剰余金)	9千円

国民健康保険事業特別会計：

歳入総額	255,529千円
歳出総額	242,789千円
実質収支(純剰余金)	12,740千円

簡易水道特別会計：

歳入総額	43,792千円
歳出総額	20,060千円
翌年度への繰越財源	18,500千円
実質収支（純剰余金）	5,232千円

後期高齢者医療特別会計：

歳入総額	27,316千円
歳出総額	26,975千円
実質収支（純剰余金）	341千円

<終わりに>

本定例会には、平成29年度北川村一般会計補正予算など5議案、報告2件、承認1件を提出させていただいております。

何卒、ご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願い申し上げます。